

### I グループ A班 石井 宏剛

ワークショップでは普段は関わることのない他大学の方々との交流があり、大変貴重な経験ができました。各大学の教育方針や、地域ごとの環境や風習の違いなど、新たに知ったことが数多くありました。特に、実務実習の態勢、一般教養科目、国家試験対策、研究の4点では、各大学でそれぞれに費やされる時間や質の違いが顕著に感じられ、ディスカッションでは常に話題に上がっていた認識があります。ディスカッション中に意見が一致あるいは異なった際に、それらの違いと照らし合わせることで新たな課題が発見されたり、解決方法が導かれたりする過程は興味深く、意見交換の重要性を実感しました。社会に出てからは同業者の枠に捕われず、さまざまな分野の方々との意見交換会を開催できたらよいなと思います。

今回のワークショップによって、より充実した教育を受けられる未来の薬学生を羨ましく思うとともに、その礎となれることを誇りに思います。このような機会を与えていただいた日本薬学会の皆様、この場を借りて感謝申し上げます。

### I グループ A班 藤原さき子

今回のワークショップを終えて、改めて自分の今、取り組むべきことや将来のことについて考えさせられました。今までは高校のときの友人しか他大学の薬学生と話すことがありませんでしたが、今回、背景の異なる多くの薬学生と話すことで自分だけでは気づくことができなかった学びや個性を見つけることができました。同時に、まだまだ大学生のうちに学ぶべきことが多くあることを実感し、残りの大学生活で取り組みたいことが明確になりました。大学や進路が異なる同期の方たちとたくさん語り合えたことでとても良い刺激を受けました。今後もワークショップに参加した仲間たちとの縁を大切に、互いに高めあっていきたいと思います。またどこかで会えることを楽しみに頑張ります。

最後になりますが、ワークショップ開催にご尽力いただいた関係者の皆様、そして、共に議論した同期の方々、心より感謝申し上げます。今回学んだことを多くの人に発信、共有していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

### I グループ A班 水野 智詞

日本薬学会第10回学生ワークショップに参加させていただき、1日という短い時間ではありましたが、他の大学の薬学生と意見交換ができる貴重な機会となりました。

新コアカリキュラムによる教育を受けた薬学生として、大学生活を振り返りながら薬剤師に求められる能力と薬学教育についてSGDを行う中で、自分自身が受けた教育を正しく理解していることがディスカッションにおいて重要であり、同一コアカリに沿った中でも大学ごとに重視している内容が異なることが様々な観点から議論が進む一因になっていると感じました。

SGD では、臨床・研究・教育・行政などの様々な分野に進む薬学生とともに、世間から何を求められているのか、現在の教育では何が不足しているのか、今後どのように改善していくべきかを、教育を受ける側の立場でなく教育を担う側の立場として、各々の経験に基づいて考え、語り合う有意義な時間を過ごすことができました。

最後になりますが、IA グループをはじめとする参加者の皆様、オンライン開催にご尽力いただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

### I グループ A 班 山田 遙

この度、日本薬学会全国学生ワークショップに参加させて頂き、普段交流することのできない全国各地の薬学生とお話し、交流を深められたことはとても貴重な体験でした。今年はコロナの影響で一度も顔を合わせていない人と画面だけで上手く意見交換ができるのかとても不安でした。しかし、一日を通して会話をしていくうちに打ち解けてスムーズな会話ができていることを肌で感じ、うれしく思いました。ただ、日程が1日しかなく、直接話し合えない障害は大きく感じました。来年以降はいつも通りに行えたらいいなと思います。

SDG で最も印象に残ったことは、大学も就職先も今までの生活もバラバラなチームだったにもかかわらず、共通認識として薬学生の6年間をもっと充実したものにしたかったということです。それは、学校のカリキュラムに対する課題以外にも学生自身がどのように行動するのかという課題もあると思いました。今後の薬学生が一人でも多く、充実した学生生活を送れることを祈っています。

最後に、今回のワークショップで全国に素晴らしい繋がりを与えてくださった関係者の方々、並びに同期の仲間に深く感謝申し上げます。

### I グループ A 班 山本 水緒

今回、オンラインでワークショップに参加させていただき、大学生活を振り返るとともに、これから薬剤師に求められる力について深く考えることができました。初めにオンラインで討論すると聞いたときは、上手く意思疎通ができるか不安でした。しかし、画面越しであることを忘れるほど、各チームで熱い討論が行われました。

各セッションでは、改訂コアカリキュラムの一期生として過ごした六年間を振り返りながら、求められる薬剤師の力やこれからの薬学教育について議論し、自分の視野を広げることができました。同じカリキュラムでも各大学で授業や実習のやり方が様々で、自分とは異なる意見を聞くことができ、とても刺激を受けました。また、COVID-19に関連した薬剤部の対応を聞き、医療現場のリアルな臨場感や責任感を改めて知ることができました。

このワークショップを通して、普段交流することのできない全国の薬学生と交流を深められたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。最後になりましたが、この

ような機会を与えてくださいました関係者の皆様並びにタスクフォースの先生方、参加者の皆様に心より御礼申し上げます。

### I グループ B班 岩本 法子

社会に求められている薬剤師としての力について、1 番大切だと思ったことは、「人との繋がり」である。この討論会で得たものは、薬剤師としてどの様に人と繋がっていくのか、そしてその繋がりをどう活かすべきなのか理解することができた。例えば、地域の人と薬剤師という立場でどの様に繋がれば良いのか、地域イベントとして、健康フェアなどを開催し、服薬相談コーナー、健康チェックコーナーなどを設けて、患者や地域の方々により分かりやすく、薬について身近に感じてもらえる様にするなど、薬剤師としてできることはたくさんあることが分かった。

6年間を振り返って、医療人としてどの様に働くべきなのか、その基礎を学べているのではないかと感じている。1年生の時は、薬剤師の仕事について、完全に理解はできていなかったであろう。しかし、時が経つにつれて、薬剤師像が明確になり、自分はこういう薬剤師になりたいと思える様になっていた。

以上のことを踏まえて、今後、現場により近い知識を付けられる様な教育が大切であると感じた。

今回の討論会の感想

他大学の方と、この様な形で接する機会があり、とても楽しかった。そして、参加してよかったと思った。

つか、みんなに直接会える日があることを願っています。

ありがとうございました。

### I グループ B班 鈴木 琴美

今回の第10回全国学生ワークショップに参加し、この6年間の学びを振り返るとともに、今後の薬学教育や薬剤師の在り方を考えるととても良い機会になりました。同じカリキュラムの薬学教育を受けてはいるものの、住む地域や環境の異なる他大学の学生の方とのディスカッションでは自分に無い考え方や自分とはまた違った体験などを聴くことができ、視野が広がったように感じました。

AIの導入や少子高齢化、そして今回の新型コロナウイルス感染症など、社会が大きく変わって行く中で、求められる薬剤師像も異なっていくと思います。その時社会に必要とされる薬剤師であるためには、薬の専門家であることは大前提として、変化を冷静に分析し、柔軟に対応する必要があると、このワークショップを通して強く実感することができました。

今回のワークショップで得た経験をもとに、薬剤師として働く覚悟・責任を持ち、社会に貢献できる薬剤師になれるように努力していきたいと思っています。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった関係者の皆様、先生方、そして学生の皆様に感謝申し上げます。

### I グループ B班 田渕 宏典

あっという間で非常に楽しく有意義な時間を過ごすことができました。普段交流することのできない全国の薬学生と意見を交わすことで、6年間を新しい目線で見つめなおし、来年社会人になるにあたってとてもいい刺激になりました。

まず千葉大学病院の石井先生のお話が印象的でした。今回のコロナウイルスでの薬剤部でのアンサンブルな活躍や未知の事態に対応できるように求められる薬剤師の資質についてもご教授頂きました。また、SGD では顔が見える薬剤師を目指したいという意見も印象的でした。自分の中であれこれ考えていた理想の薬剤師像の新しい一つの形を見つけることができたように感じました。未だに薬を渡すことだけが薬剤師と考えている人もいる中で、薬剤師をより知ってもらい、薬剤師としての活躍の幅を広げていくには何ができるのかを主体的に考えていきたいと感じました。今回の zoom での他大学との交流は非常に刺激的で新しい学びにつながるため、5 回生の実習終わりの活発な時期に意見交換する機会を薬学生に設けても面白いのでは思いました。

異例な情勢にも関わらず、貴重な機会をいただきありがとうございます。いつかまた今回の参加者の方と実際に会って、語り合える日が来ることを楽しみにしております。

### I グループ B班 山本 奈緒

今回のワークショップは、初めて参加するワークショップで、さらに全国の薬剤師の先生方、薬学生とオンライン上でディスカッションを行うということで、始まる前はとても緊張していましたが、実際に始まってみると同じ薬学部の6年生ということからすぐに活発な意見交換を行うことができたように感じます。セッションの時間も毎回話し足りないと感じる程で、あっという間に過ぎてしまいました。その中で新たな学びがたくさんあり、特に、各々の薬剤師に対する考えや理想像、地域特性に応じた薬剤師の働き等については非常に貴重なディスカッションができたと思います。薬剤師という職業に対する思いや理解もとても深まったので、今回の経験をこれから先、薬剤師となったときにも活かしていきたいと思います。

また、このような大学を越えたワークショップは、貴重な経験ができるとともに、刺激を受けて薬学生としてのモチベーションも向上すると感じたので、交流の機会がもっと増えるとよりよい薬学教育に繋がるのではないかと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様ならびに参加された薬学生の皆様に心より御礼申し上げます。

### I グループ C 班 秋山 真帆

第 10 回全国学生ワークショップへ参加させていただいたことは貴重な経験であり、大変有意義な時間を過ごすことができました。コロナ禍において初のオンライン開催となり、初対面の人たちとオンラインで SGD ができるのだろうかと不安もありました。いざ SGD が始まると、自分の意見を積極的に発言し、役割を全うしようとするチームの姿があり、意見交換をするたびに刺激を受けました。同じ薬学生といえども、バックグラウンドや将来の活躍する場も異なり、今回の SGD を通して視野を広げたものの見方をすることができました。今後薬剤師として 6 年間学んできたことを社会に貢献する立場として、このタイミングで社会に求められる薬剤師の力について考えることは私自身大きな収穫となりました。また、全国の薬学生と人脈が広がったことは財産であり、この機会を大事にし、今後も関りを持ち続けたいと思います。

最後になりますが、貴重な場を設けて下さった運営関係者の皆様、参加された全国の薬学生の皆様に感謝致します。

### I グループ C 班 古谷 晴美

私はこの 6 年間勉強や課外活動に対し熱心に取り組んできました。しかしどんな薬剤師になりたいのか、具体的に何をしたいのか、など自分の目指す薬剤師像はぼんやりとしており明確ではありませんでした。今回このワークショップを通して 6 年制薬学部と同級生とカリキュラムや社会に求められる薬剤師について議論して発表し、6 年間で振り返るとともに自分の目指す薬剤師像を明確化することができました。オンラインでの討論及び発表だったので前半は中々意見をまとめることが難しかったですが、それぞれの積極的な発言や行動により後半はスムーズに進めることができました。今まで私は他の薬学部生と関わる機会が全くなかったので自分にはない意見を聞いて刺激を受け視野が広がったと思います。さらにこの機会を通して共に薬剤師を目指す他大学の学生と交流できたことが何よりもいい経験だと思いました。

この度は素晴らしい機会を与えてくださり誠にありがとうございました。今回の経験から学んだことを薬剤師になってからも活かしていきたいと思います。

### I グループ C 班 本澤 建人

薬学部に入學して 6 年間が経ちましたが、他大学の薬学生と交流する機会は振り返ってみてもほとんどなく、大変貴重な経験をすることが出来ました。

ディスカッションした中で一番印象に残っているのは、薬学部の他の医療系学部にはない強みとして、薬剤師には病院や薬局以外にも製薬企業研究者や MR、行政職などの幅広い活躍の場があるという事です。これは薬だけでなく物理・化学・生物の基礎科目や公衆衛生も学んでいる薬学部だけの強みです。グループ内では、患者のニーズを製薬企業の仲間にフィードバック等することで卒業後も同じ薬剤師としてのつながりを活用

できるとより社会に貢献できるのではないかという結論に至りました。本ワークショップに参加したことで自分にはない新たな視点を取り入れることが出来ました。今回できた新たなつながりを今回限りで終わらせるのではなく今後薬剤師になっても生かしていきたいと思います。最後になりますが、コロナ禍で開催が危ぶまれた中、今回のワークショップを開くために尽力して下さった先生方、先輩方に心より感謝申し上げます。

### 1 グループ C班 真壁 一志

本ワークショップは、入学時から掲げられていた「薬剤師として求められる基本的な資質」である 10 の資質について、6 年間の大学生活を経てどのように身につけることができたのか振り返る、総まとめのような機会になった。様々な大学の薬学生と意見を交わす中で、同じコアカリキュラムに基づく薬学教育を受けてきたにもかかわらず、大学ごとの特色の違いに驚いた。もし高校生に薬学部選びのアドバイスをするならば、薬剤師国家試験合格の先を見据えて、10 の資質のどこに力を入れた薬学教育を受けたいのかまで考慮して大学選びをしていただきたい。また、直接的に薬剤師の資格を使う職業のみならず、薬剤師の資格を有する薬学部卒業生すべてを薬剤師として捉えた上で、社会が薬剤師に求める力について意見を交わすことができたのは貴重な経験となった。来年以降のワークショップでは、ぜひ臨床現場以外で活躍される「薬剤師」の講演を取り入れていただきたい。

最後に、このような機会を与えて下さった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。このワークショップで生まれた関係性を薬剤師になってからも深め、互いに向上していきたいです。

### I グループ C班 森本 彩香

今回のワークショップで、社会に求められる薬剤師像や、これからの薬学教育について他大学の薬学生とディスカッションした中で、自分とは異なる視点からの意見をたくさん聞くことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。特に、大学によって授業や実習の内容に特色があり、様々な「あってよかった授業」を知れたのは興味深かったです。

オンライン上でのディスカッションということで、うまく議論ができるか不安でしたが、各セッションで司会を務めていただいた方々がうまく進行して下さったおかげで、グループ内でも多くの意見が上がり、活発な議論ができたと感じました。また、限られた時間の中で意見をまとめて発表するのは、とても難しかったのですが、他グループの発表や質問にはとても刺激を受けました。

社会に求められている能力について考え、これまでの学生生活を振り返り、これからの薬学教育について全国の学生と議論するという経験は、なかなかできないことなので、

今回のワークショップで学んだことを活かし、理想の薬剤師像に近づけるよう自己研鑽を積んでいきたいと思います。

### I グループ D班 上田 一奈太

今年度のワークショップは COVID-19 蔓延の影響もあり、オンラインかつ1日のみの開催となりましたが、このような機会だからこそ学ぶ事もありました。千葉大学病院における COVID-19 罹患患者への対応に関する石井伊都子先生のご講演を拝聴し、普段の講義や実習では知りえない現場の苦悩について学ぶ事が出来ました。また新コアカリキュラムに準拠した教育を受けてきた6年次学生として、今後必要とされる薬剤師とは、またその資質や今後の薬学教育について、同期の方々とディスカッション出来たのはとても良い経験になりました。同じ薬学部とは言え、あと数か月後には社会人になり異なる道へ進む可能性のある皆様とお話しでき、とても楽しく刺激的だったように思います。このワークショップを通して、地域医療における薬剤師の重要性、また患者に最善の医療を届けるためにも、まずは患者・その他医療従事者・メーカーの方等、多くの人々から信頼される薬剤師とならなければならないことを再認識する事が出来ました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった日本薬学会関係者およびタスクフォースの先生方、そして共に議論を交わした同期の皆様に深く感謝申し上げます。

### I グループ D班 上原 美咲

最初、全国学生ワークショップの話をいただいた時は、不安や自信の無さから参加することを悩みました。しかし、全国の大学の代表者と意見を交換したり、交流する機会というのはこの話を逃したら一生訪れないと感じ、引き受けさせていただきました。今までに大学でもSGDを何度か行いましたが、他大学の学生と行うSGDはとても新鮮で刺激的でした。皆さん積極的でディスカッションも盛り上がり、多くの意見を交換することができました。

座学を4年間以上習ってきましたが、実習での意見が多くでてきたので、実習は印象に残りやすく、学生にとってとても重要な経験であることが分かりました。だからこそ、実習施設による経験の差は無くしていかなければならないと感じました。

また、自分の大学と他大学の取り組みの違いについて知ることができ、良い点と悪い点を再確認することができました。

そして、自分がどんな薬剤師になりたいのか・ならなければならないのかについて考えさせられた1日となり、参加して良かったと心から思いました。

このような貴重な経験の場に招いていただけたことを誇りに思います。本当にありがとうございました。

### I グループ D班 千葉 カナ

全国学生ワークショップに参加して、他大学の学生と意見交換することでたくさん刺激を受けた。6年生であるからこそ、自分の目指す薬剤師像を明確に持っていたり、今まで受けてきた講義やCBT・OSCE、それぞれの実務実習を踏まえたより深い討議ができるため、活発に話し合うことができたと思う。また、討議や発表を通して、他の人の進行の進め方やスライドの作り方、発表の分かりやすさからも学ぶことが多かった。私は自分の伝えたいことを思いつくままに話すことしかできななかったが、進行役の方が分かりやすくまとめてくださったり、スライド作りの方が端的に言い換えてくださり、発言の度に助けていただいた。今後に向けて、考えをまとめる力や相手に伝える力を身につけたいと思うきっかけとなった。

お互いの発現に対して共感し合えた時は、大学が違かったとしても同じ薬学生であり「薬剤師」という同じ夢に向かっていることを実感でき嬉しかった。また、他大学のことや実務実習での体験談を聞くことも普段できないことであるため、大変楽しい時間を過ごせた。

今回学んだことや感じたことを無駄にせず、ぜひ将来に活かしていきたい。

### I グループ D班 外山 真希

今回の第10回全国学生ワークショップはリモートでの開催でした。

冒頭の石井先生の講演では、テレビ等では報道されないCOVID-19に対応する病院薬剤師の対応を知ることができました。刻一刻と変容する状況の中で、患者さんや他の医療従事者への対応に迫られる中、薬剤師の立場として正しい判断が何なのかを考えさせられました。

その後のSGDでは、初対面の方とのリモートでのSGDが初めてだったこともあり、とても緊張していました。しかし、議論が進むにつれて緊張も解け、有意義な議論ができたと感じています。特に「新しいカリキュラムへの希望」についての議論では、同じコアカリキュラムで学んでいるにもかかわらず、履修内容や履修時期などの相違点や、反対に共通点を見つけることができ、興味深かったです。

実際に対面で会うことはできませんでしたが、1日かけて他大学の薬学生の皆さんと交流できてよかったと思います。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった日本薬学会関係者の皆様、そして共に議論した薬学生の皆様に心より感謝申し上げます。

### I グループ D班 原田 美那

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、新たな生活様式が受け入れられつつある今夏、第10回全国学生ワークショップが初めてオンラインで開催されました。

大学もオンライン授業になる中、全国の薬学生と繋がることができました。オンライン

開催によるシステムの不安もありましたが、先生方のご尽力によりスムーズに実施されました。

今回のワークショップは「社会に求められる薬剤師としての力」「10の資質とコアカリキュラム」「新しいカリキュラムへの期待」というテーマで行われ、これまで6年間の授業や実務実習で学んだことを振り返り、目指す薬剤師像を明確にする良い機会となりました。

全国の学生と話す、それぞれの大学で研究や臨床の知識、地域医療等のようなことに比重をおいて勉強してきたかが異なり、受けてきた教育によって目指す薬剤師像や求めるカリキュラムも違うことに驚き、とても新鮮でした。今回の意見が今後の薬学教育に少しでも参考になれば幸いです。

対面でお会いできず残念でしたが、またどこかでお会いできることを楽しみにしております。私は将来、薬学教育に携わりたいと考えており、今回の経験をぜひ今後に活かしていきたいと思います。

## II グループ A班 石橋 果奈

全国学生ワークショップに参加し、学校の中でしか薬学生との交流がなかったため、全国の薬学生と交流することで学校の方針や授業内容など様々な違いを共有することができ、共感してもらえたり、新たな視点で意見を出し合うことで、ひとりでは考えることのできなかつた考えを知ることができ、とても刺激的な初めての体験をすることが出来ました。

特に印象に残ったこととして、「薬学生としてキテる/キテないことを感じたこと」をテーマに行った議論の際に、私は今までの知識を実習で活かすことが出来ず、理想と実習のギャップを感じたことをキテないことだと考えていたが、先生からアドバイスを頂き、討論していく中で実習を通して自分が出来ないことを気づくことができたこととキテる自分に変えることが出来ると知り、ネガティブな方向に考えていることも視点を変え、ポジティブな方向に変えていきたいなと思いました。

オンラインでの開催となってしまったため、上手に話すことができるかととても不安でしたが、先生方や共に討論を行った方々の雰囲気がとても良く、自分の思ったことを伝えることが出来ました。

## II グループ A班 宇都宮 弘倫

まず初めに、今回は新型コロナウイルス流行のなか、多くの方々の熱意・御尽力により初のリモートによる開催となりましたが、貴重な機会を与えていただき、誠にありがとうございます。全国学生ワークショップにおいて、今まで数多くの行政・医療・教育者・学生の方々が主体的に関わり、紡いできた薬剤師への「理想」と「問題点」や「目標」が受け継がれてきました。そして、第10回目となる今回も他大学の先生・学生の方々

と有意義な議論を行い、問題に対する視点・意識・アプローチの違いに多くのことを学び、刺激を受け、今一度自分の薬剤師に対する「思い」と向き合うことができました。コロナ禍の混乱や医療業務の AI 化が叫ばれるなかで、自身が「薬剤師」としてどの様に歩むべきかの羅針盤を得ることができたと思います。更に、最後の議題として、今後の薬学教育にとって何が必要であるかについての SGD を行いましたが、そのなかで今までの学習・生活を振り返り、反省点・改善点を見出し、また先生方の視点・思いも知ることができ、これらをまとめ上げることで今後の薬学生たちの指針の手がかりとなることができれば幸いに思います。

## II グループ A 班 合田 雄太朗

今回、第 10 回全国学生ワークショップに参加し、他大学の薬学部 6 年生と交流することで、今まで大学の中だけでは気が付かなかった視点や、様々な価値観に触れることができました。

最初は、オンラインで更に全国の初対面の同級生といきなり討論することに不安を感じていました。しかし、いざ討論が始まると、感じていた不安は消え、盛んに行われる討論に自らも夢中で参加していました。同じ薬学部で 6 年間学んできた学生でも、過ごしてきた環境や、目指す薬剤師像によって考え方が全く違い、自分にとって大きな刺激を受けることができました。今回のワークショップでの経験を将来に繋げていけるよう、精進していきたいと思います。1 日ではありましたが、非常に有意義な時間を過ごすことができ、参加できて良かったと心から思っております。最後になりますが、日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生方、そして同期の皆様本当にありがとうございました。

## II グループ A 班 高梨 理紗子

今回のワークショップは予想以上に有意義な時間となりました。理想の薬剤師像などについて、学生間で意見を交換する機会は今までなかったので、自分の考えをまとめ、様々な考えを知ることができ、良い刺激を受けられました。誰の意見も否定せず、より良い方向に意見がまとまっていき、すぐに時間が経ってしまいました。印象に残ったことのひとつとして、他の医療系学部との交流があります。私の大学のカリキュラムでは医学生や看護学生との接点がありませんが、お互いの職種を理解できるような機会ができたらいいなと思います。実習や就職活動を終えた今だからこそ、必要性に気が付くことができました。また、研究に対するとらえ方の違いも感じました。薬学教育に必須ではないかもしれませんが、薬剤師として創薬研究の過程も理解できるようにするために、日々の実験を通して得た力を生かせるようにしたいと思います。今までの 6 年間大学の中外で学んだことすべてを自分の力にして、今回知り合った方々が努力していることを忘れずに、日々精進したいと再確認できました。このような貴重

な機会をいただき、ありがとうございました。

## IIグループ A班 森戸 寿恵

全国学生ワークショップに参加し他大学の方々と交流できたことは、今までにない貴重な経験になったと感じております。私自身偏った意見になりがちのため、自分とは違う視点を持つ方々のお話から学ぶことはとても多く、充実した時間を過ごすことができました。参加を決意した時期に、就職にあたり自分が目指す薬剤師像に悩んでいたことがあります。セッション1の求められる薬剤師に関する議論は、私が薬剤師としてどうありたいかを見つめ直すきっかけにもなりました。また私たちの班の議論を振り返ると、大学生前半で行いたかったことが多い印象を受けました。この気づきを踏まえ、挑戦すべき事柄やタイミングを後輩たちに伝えることも、薬学生としての終わりを迎えた自分の役割になると感じました。オンラインでの実施は対面での議論とは異なる雰囲気であり、議論への参加にとっても苦戦しましたが、意見を伝え合うことは自分への刺激やモチベーションに繋がると感じたため、今後も意識して行っていきたいです。最後に、対面が困難な中このような機会を与えてくださった開催関係者の皆様、また共に議論した薬学生の方々に深く感謝申し上げます。

## IIグループ B班 近藤 安史

ワークショップで多くの学生と議論や意見交換を行い、これからの勉強に対するモチベーションや将来の薬剤師像がより明確になったと感じた。

セッション1において薬剤師に求められる力を確認することで、自分が大学で行ってきた勉強や部活動、校外学習が生きてくることが実感できた。

セッション2では、キテる・キテない自分を再確認することで、自分はできるという自信を持つことができた。一方で、キテない部分も見つかったので今後改善する姿勢を忘れずに過ごしていきたい。

セッション3の今後の薬学教育については、より実務的な内容を取り入れていくべきだと思う。勉強して感じたのは、副作用が出たときの対処法や代替案の提案の力が足りないことである。学生たちで考える時間を確保し、フィードバックとして先生方から実際の臨床での経験を教えていただきたいと思った。

最後に、セッション3を振り返ると自身は少し受け身になっていた部分があると感じた。知識は自分から積極的に行動すれば得ることができるので、後輩にはわからないこと知りたいことを積極的に収集してほしい。自身も常に疑問を持って物事に取り組み、考える力・問題を見つける力をさらに育んでいく。

## IIグループ B班 坂部 彩

薬学教育について長時間考えたことはなく、参加者の皆様との交流は興味深く純粋に

楽しかったです。オンラインでの議論に関し自らの反省点はあるものの、大変有意義な時間となりました。

特に「新しいカリキュラムに期待すること」というテーマについての議論が印象的でした。参加者の皆様の「もっと早い段階から処方解析等の臨床に近い内容を学びたい」という熱意には感銘を受けました。基礎科学を中心に学んだ後、薬理学等の理論を身に着け、実務実習にて臨床現場を知る、という進め方は知識レベルが徐々に上がるため学習効率が良いように思います。しかし、薬学生は敢えて早期に臨床に近い知識に触れることで、より基礎的な項目を学習する意欲も増すと話していたのです。負担がかかったとしても多くの知識や考え方を吸収し薬剤師としての理想を実現したい、という想いに共感しました。また、私個人としては薬学生として学ぶ期間が残り少ないので、大学卒業後も積極的に学び成長し続けたい、と決意を新たにできました。

最後に、このような状況下、ワークショップを実現してくださった先生方、様々な視点を教えてくれた参加者の皆様に心より御礼申し上げます。

## II グループ B班 末永 実華

薬学教育について長時間考えたことはなく、参加者の皆様との交流は興味深く純粋に楽しかったです。オンラインでの議論に関し自らの反省点はあるものの、大変有意義な時間となりました。

特に「新しいカリキュラムに期待すること」というテーマについての議論が印象的でした。参加者の皆様の「もっと早い段階から処方解析等の臨床に近い内容を学びたい」という熱意には感銘を受けました。基礎科学を中心に学んだ後、薬理学等の理論を身に着け、実務実習にて臨床現場を知る、という進め方は知識レベルが徐々に上がるため学習効率が良いように思います。しかし、薬学生は敢えて早期に臨床に近い知識に触れることで、より基礎的な項目を学習する意欲も増すと話していたのです。負担がかかったとしても多くの知識や考え方を吸収し薬剤師としての理想を実現したい、という想いに共感しました。また、私個人としては薬学生として学ぶ期間が残り少ないので、大学卒業後も積極的に学び成長し続けたい、と決意を新たにできました。

最後に、このような状況下、ワークショップを実現してくださった先生方、様々な視点を教えてくれた参加者の皆様に心より御礼申し上げます。

## II グループ B班 平井 康暉

オンライン上での SGI ということで通信での不具合や自分の伝えたいことが相手に誤解されて伝わらないかという不安がありましたが、WS を終えて、参加して良かったと心から思いました。

COVID-19 に対しての、病院での実際の状況と対策についての講演を聴講し、薬剤師として求められること、やるべきことを再認識でき、自分は何ができるのか考えました。

求められていることを実行するためには、薬学的な基礎知識をはじめ様々な幅広い知識も必要であると感じ、日々の学びをより一層精進していきたいと思います。

そして、様々な学生と意見を交換することによって、教育に対する感謝や不満の共感や共有ができ、また新たな発見も出来ました。

一番印象深いのは、実務実習での服薬指導をさせていただいた時、情報を伝えることでいっぱいになってしまい患者さんのことをよく考えられていなかったという経験を自分だけでなく他の学生も感じていたことがわかり、前向きにとらえることができました。今回の経験を活かし、頑張りたいと思います。

最後に、このような機会を与えてくださった日本薬剤師会、オペレーター、タスクフォースの皆様、全国の薬学生にお礼を申し上げます。

## II グループ B 班 宮城 志織

薬学生として同じ領域を学んできた仲間と過去や未来について話し合う中で、様々な気付きと考え方を得ることができました。今回は、1日限りかつ対面ではなくオンラインという例年とは異なる形式であったため、討論に対して不安がありましたが、互いに有無相通じ合うことで問題なく進めることができました。他大学の学生との討論は、オンラインという条件も加わることで、伝えたいことが上手く言葉に出来ないもどかしさを感じ、相手に分かりやすく伝えるというコミュニケーションの本来の意味に気づくと共に、新たな場へ飛び込む好奇心を掻き立てられるきっかけとなりました。『過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望をもつ』という言葉があるように、ワークショップでの経験こそが今後の私の希望につながると共に人生の糧となるであろうと感じました。このような貴重な機会をご提供して頂きました諸先生方をはじめ、全国から集結した参加学生の皆様に心より御礼申し上げます。

## II グループ C 班 太田 綾香

今回、日本薬学会第10回全国学生ワークショップに参加させていただき、例年より少ない日数・時間でしたが大変有意義かつ刺激的な時間を過ごすことができました。参加している学生が同学年であるということで、不慣れなZOOMを介したSGDでしたがお互い気兼ねなく話し合うことができたと感じています。

3回にわたり様々な議題で議論を行いました。本当に驚くことばかりでした。住んでいる地域も違えば、選んだ進路も異なる班員の意見は自分の思いもよらぬ方向からのものもあり、自分の今まで捉えていた平面的な薬剤師像に立体性をもたすことができたのではないかと思います。私はこのワークショップに参加を決めてから当日までの期間が短かったので、正直不安なことも多くありましたが楽しく参加することができたと同時に、長く続く自宅学習で下がっていた国家試験へのモチベーションにも繋がりました。

最後になりましたが、このような情勢下の中貴重な機会を与えてくださった関係者の

皆様、2C班の皆様、そして参加された学生の皆様に深く感謝申し上げます。

## IIグループ C班 廣田 瑛紀

第10回全国学生ワークショップを通して、同世代の薬学6年生の貴重な意見を聞くことができました。

今回、セクション1~3のSGDを実施したことで、現在および将来的において社会に求められる薬剤師となるための必要な素養とはどのようなものかを考える良い機会になりました。話し合いの中で、今後の薬剤師は臨機応変に対応する力や正確な情報収集と患者への適切な情報提供する力など、必要とされる力が多くあると改めて感じました。また、SGDによる意見出しでは、各々が大学生活や実務実習、就職活動における経験から得られた知識や考え方、そのとき感じ取った思いなど、様々な側面から意見を聞くことができたため、自分の見識を広げることが出来ました。話し合いでは共感できる部分も多くありましたが、自分とは反対の意見も多くあり、それぞれの意見に対して、各々の考え方を聞くことで、自分の考えが足りなかった部分を感じ取ることが出来ました。話し合い得られた知識や考え方を今後の学校生活や社会で活かせるようにしていきたいと思います。

最後にコロナの影響の中、ZOOMを介して同世代の薬学6年生と意見を交換する場を準備して頂いた関係者の皆様に深く感謝致します。

## IIグループ C班 前田 里奈

第10回全国学生ワークショップに参加し、薬剤師に求められることに関して3つのセッションについて議論していく中で、これまでの学習を振り返る良い機会になりました。SGDでは、薬剤師に求められる力に対して、しっかりとした意見を持った学生が多く、これからの薬剤師について具体的に考えることができました。また、大学入学後の学習や実務実習先での経験について、全国の学生からお話を聞いて、積極的に自己研鑽に取り組んでいると感じ、とても刺激になりました。様々な学生の意見を聞くことで、私の中で今までに無かった考えに多く触れ、知見を広めることができたと感じています。

今回のワークショップでの経験を活かし、自ら考え行動できるような薬剤師になれるように、日々の学習に取り組んでいこうと思います。最後になりましたが、コロナ禍の中でこのような貴重な機会を与えてくださった日本薬学会関係者の皆様、タスクフォースの先生方、参加者の皆様に感謝いたします。

## IIグループ C班 松村 歩美

住む地域も、通う大学も様々。共通項は「薬学生」であること。そんな全国の仲間たちとオンライン上で一堂に会することが出来たのが、第10回全国学生ワークショップだった。これから始まる物語の幕開けに、ドキドキとワクワクで胸が高鳴っていた。

私はこのWSを通して、ある気づきに至るまでの経路は十人十色であることを学んだ。そして、一人一人違う、気づきの経路をシェアすることで、全体として大きく成長出来るということを改めて感じた。私は数多くの経験を積み重ねていく中で、重要な点を抽出して気づきを得るタイプであるのに対し、WSで出会った仲間には1つの経験から大学で学んだ知識をもとに考察を深めたうえで、その考察が正しいかを証明するためにさらなる経験を積み重ねていく人もいた。この違いをもつ人達が集まり、想いや考えをシェアすることによって、どんな難題にも果敢にチャレンジすることが出来るのではないかと強く感じた。

ここで出会った仲間たち、そして先生方とはこれからもきっとかけがえのない私の宝物になるのだろうと心の底から思う。またいつか、顔を合わせて「あの時楽しかったね」と言える日々が来ることを楽しみに、日々を過ごそうと思う。

皆様、本当にありがとうございました。

## IIグループ D班 奥村 真由

今回WSに参加させて頂き、非常に有意義な時間を過ごす事ができました。同年代の薬学生、約60名が全国から集まりディスカッションを行いました。それぞれの将来像、様々な考え方・意見を聞く事ができ、私自身とても刺激を受けました。病院や薬局、公務員、研究職等、卒後の進路は様々でしたが、「患者さんの役に立ちたい」「社会に貢献したい」という想いは皆一貫していたように思います。理想の薬剤師像に近づくためにはどうすれば良いか、普段あまり考えることはありませんでしたが、残り少ない学生生活の中、一度立ち止まって考えるきっかけとなりました。また、参加者各々が凄くしっかりと自分の考えを持っていることに焦りを感じる一方で、とても頼もしくも感じました。これから先何か大きな壁にぶち当たった時、ここで出逢った仲間が全国で活躍している姿を見れば、きっとそれが私の原動力になると思います。これからも様々な場面で情報交換をしたり、困った時に互いに相談できるよう、繋がりを大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった開催関係者の皆様、参加された各大学の薬学部の皆様に深く御礼申し上げます。

## IIグループ D班 尾高 椋介

新型コロナウイルスが猛威を振るっている中で、薬剤師にはどのような力が求められているのか。今回のワークショップではディスカッションを通じて多くの価値観に触れ、共有することで、今後の薬剤師の役割について考える機会を得ることができました。

昨今の世間の混乱を見ているせいか、薬剤師の役割として正しい情報の共有が重要ではないかという意見が多く出ていたと感じました。薬剤師はその情報収集能力を活かし、患者だけでなく地域の方々にも正確な情報を伝えることが重要です。薬剤師は薬局やド

ラッグストアなどを通じて患者に近い医療従事者だといえます。だからこそ患者に寄り添い、相談に乗れるような関係を築く努力が必要だと感じました。それらの活動を通して地域医療への貢献が行えたら薬剤師の価値をさらに高めることにつながるのではないのでしょうか。

最後に、このような時勢にも関わらず、貴重な機会を作っていただいた関係者の皆様、そしてともに議論を交わした学生の皆様に心より感謝申し上げます。

## II グループ D班 華 晴己

全国学生ワークショップは、将来の薬剤師像や薬学教育に関する意見を、学生同士で共有する素晴らしい体験でした。ワークショップを通して、個々の進路は違えど、医療人として自ら積極的に医療と社会に貢献したい、薬学教育をよりよくしたいという気持ちは、学生皆が、同じ思いであったように思います。話し合いの中で、私が特に共感できたことが2点あります。

1つ目は、自ら考え、学ぶことが重要であり、それは楽しいということです。SGDの中で多くの学生とこのことを共有でき、今後も、考え学ぶ姿勢を大切にしたいと思いました。

2つ目は教育面で、現在のカリキュラムでは薬学生全員が、情報に関する十分な教育を受けられていないという意見です。薬学部全体で考えると情報に関する教育は不十分だと私も思いもいます。例えば目の前患者さんの問題を定式化し、PubMed等で文献検索を行い、評価することができる学生はとても少ないと思います。様々な情報がある現代において、正しく情報を収集し、正しく活用する能力を、学生の内から標準的に学ぶことにもう少し時間をかけるべきだと思います。

今回のワークショップを通して、全国の薬学生と繋がり、思いを共有できたことは、医療人を志す励みになりました。学んだこと、感じたことを、私の大学でも共有したいと思います。素晴らしい機会をいただきありがとうございました。

## II グループ D班 竹内 美穂

Zoomでの全国ワークショップに参加させていただき、初めて他の薬学部の学生さんと話をさせて頂く機会を頂きました。主に6年間での薬学教育の中で自分が学んだことや、コアカリキュラムの意見についてセッションして、自分よりも薬学教育に対して強い意見を持っている方がたくさんおり、非常に刺激になりました。特に実務実習に対する意見を話していく中で、皆さんきちんと学ぶべきことを意識しながら実習に取り組んでおり、私自身が得られていない知識もたくさん聞くことができ、話を聞く中でとても勉強になりました。また、大学生活では、自分の世界を広げるため、自らインターンに行ったり、様々な経験を通して成長している姿を見ることができ、同じ薬学生として、自分ももっと頑張らなければならないと強く感じました。薬剤師として求められる資質

を薬学6年間で、しっかり身に付けるためにも、この資質を知ったうえで学んでいくべきであったと反省の気持ちもありますが、残りの学生生活を、このワークショップで得た向上心を生かして、充実したものにしたいと思います。

### Ⅲグループ A班 武村 昌俊

私は今回の全国学生ワークショップに参加し、他大学の同期とSGDや討論することができとても有意義な時間を過ごすことができました。ワークショップでは「社会に求められる薬剤師としての力」についてのディスカッションをはじめ、各大学についての話や最後には「新しいカリキュラムへの希望」について話し合いました。みなさん積極的に発言され、それぞれの想いを語ってくださるのでとても良い刺激になりましたし、自分もさらに深く考えて行動しなければならないと改めて感じました。また、他大学の方と交流する機会があまりなかったため、全てにおいて新鮮でとても楽しかったです。今回の経験はこれから薬剤師として活動していく上で大きな影響を与えてくれる本当に貴重なものとなりました。オンライン上での開催でしたので皆様と直接交流することはできませんでしたが、このご縁を大切にしてください。どこかでまたお会いできることを楽しみにしております。

最後になりましたが、新型コロナウイルスで大変な状況下にもかかわらずこのような貴重な機会を与えてくださった日本薬学会関係者の皆様、講師やタスクフォースの先生方、参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

### Ⅲグループ A班 崔 有羅

今回のワークショップで薬学教育に対して全国の学生の意見を聴くことができ良かったと思います。また班によって同じテーマでも違う意見が出ていたので他の班の発表も興味深く聞くことが出来ました。特に他の所ですで行っていた多職種連携を学ぶための他学部との合同授業や不均等な薬局実習を補うための薬局間でローテーションは、早く全国の学校で導入して欲しいと思いました。そして担当の先生がテーマに対して何を話せばいいのか把握でなくなったり、テーマとかけ離れた方向に話が行ったりしていた際に、適切に調節して頂いたため、話し合いがスムーズに進められたと思います。6年生が思う良かった点、悪かった点を伝える先があることが良かったです。それを伝えることで過去にとどまらず時間とともに少しずつでも改善していくと思うので、これからの薬学教育の未来は明るいと思います。何よりも薬剤師として重要だけど、日常が忙しくて普段は深くまで考えなかったテーマを考える機会があったことが良かったと思います。

### Ⅲグループ A班 畠山 美穂

この度は、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

私は実務実習を通じて、本学で取り組んでいた他職種連携教育（IPE）の重要性について、再認識しておりました。皆さんの発表の中でも、IPEのカリキュラム導入について提案されていて、やはり今後の薬学部教育において欠かせないものになるのではないかと感じました。

討議内容といたしましては、発表のプロダクトが作成しやすいような課題でしたので、とても進めやすかったです。実務実習で習得できる技術や知識の施設間における格差をできるだけ少なくするために、薬局や病院のローテーション実習など、新しい視点を学ぶこともできました。講演内容もとても興味深く、新型コロナウイルス感染症の変遷について学ぶことができ大変勉強になりました。

今回のワークショップでの気づきや学びは、今後薬剤師として働き始めてからも活かせるよう、きちんと心に留めておきたいです。コロナ渦で例年通りとはいかない状況にもかかわらず、全国の薬学部生の皆さんとの意見交換の場を設けてくださりありがとうございました。とても勉強になりましたし、とても楽しかったです。

### Ⅲグループ A班 森崎 実友

今回のワークショップに参加させていただき、全国の薬学生と議論を交わす中で、私自身が薬剤師を目指した時の初心を思い出しました。オンラインでの開催でしたが物理的距離に関係なく、各学生の薬剤師や医療全体に対する熱い想いを感じて強い刺激を受け、理想の薬剤師像と自分に足りない部分を見つめ直すことが出来ました。

また、日頃抱く薬学教育に対する想い・意見を、教育に携わる方々に直接フィードバックさせていただけるととても貴重な機会でした。改訂コアカリキュラム1期生としてその教育の成果を示すことができ、厳しいものも含んだ私達の意見が今後の薬学教育をさらに充実したものに生かしていただけますと幸いに存じます。ワークショップも第10回ということで、先輩方のおかげで今の薬学教育が在るという歴史に感謝の念を抱くと共に、今後の薬学教育を受けた後輩達に追い越されないよう、卒業後も日々自己研鑽に励まなければと身の引き締まる思いです。

最後になりましたが、新型コロナウイルスの影響下でオンライン開催にご尽力いただきました日本薬学会ならびに関係者の方々、そして短い時間の中でも刺激的な議論を交わした参加者の皆様に心よりお礼申し上げます。

### Ⅲグループ A班 脇田 知希

第10回全国学生ワークショップに参加し、他大学の薬学生やタスクフォースの先生と意見を交わすことができ、有意義な時間を過ごすことができました。ワークショップでは、「社会に求められる薬剤師としての力」「薬学生としてキテる/キテない自分を実感した時」「今後はこういう薬学教育が必要だ」という3つのテーマで討論をしました。4の中で6年間の薬学教育を受けた側の視点で感じる、現在の薬学教育の良

い点や課題点について意見を出し合うことで、いままで受けてきた薬学教育を再認識することができました。また、今後の薬学教育に対しても意見を交換することができ、新たな気づきを得ることができました。このワークショップで得られた気づきが、今後の薬学教育に役立つことを願っております。最後になりますが、COVID-19の影響もありオンラインでの初開催ということでしたが、SGDでの討議や発表後の質疑応答なども円滑に進行し、充実したワークショップでした。貴重な経験となりましたワークショップ開催のためにご尽力いただいた関係者の皆様、そして参加者の皆様に感謝いたします。

### Ⅲグループ B班 伊藤 安里紗

私は、他大学の方とディスカッションするのは今回が初めての経験であり、かつリモートでの開催ということでもとても緊張していました。しかし、実際に参加してみると、自らの6年間の学びを振り返り今後の課題を考える機会となっただけでなく、他大学の学生さんが自分と同じ悩みや経験をしていたことを知ることができたり、自分にはなかった観点からの意見を聞くことができたりと非常に有意義な時間となりました。議論の中で、求められる薬剤師像になるために足りないと考えた能力の中には、今後の国家試験に向けた学習の中で身に付けられるものもあると感じたので、本日の経験をモチベーションに理想の薬剤師に近づくことができるよう勉強を続けたいと思いました。コアカリキュラムを作成している日本薬学会の方々が、直接に薬学教育を受けている学生の意見を聞いてくださるといのは、とてもありがたいことだと思っております。コロナ禍の大変なご時世のなか、このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

### Ⅲグループ B班 川北 美帆

第10回全国学生ワークショップに参加させていただき、今まで他大学の薬学生との関わりがありませんでしたが、グループディスカッションなどを通してこれからの薬剤師像について、交流しながら多くの話し合いをすることができました。

実務実習ではたくさんの経験をさせていただきましたが、それを共有する機会がありませんでした。しかしこの機会に、そこでの反省点やこれからどう活かしていけるのか、どのようにして学んでいけばいいのかなどを話すことができました。お互いに積極的に意見を交わすことにより、自分では気付けないことも知ることができ、とても良い刺激となりました。

このワークショップを通して学んだことを活かして、これからも社会に求められる薬剤師となれるように日々努力していきたいと思えます。

今回はコロナの影響でオンラインでの実施とはなりましたが、そのような中でもこのような機会を与えてくださった日本薬学会の関係者、先生方の皆様には心より御礼申し

上げます。ありがとうございました。

### Ⅲグループ B班 早内 大輔

今回、ワークショップを通して他大学の学生の方々と様々な意見交換をすることで、私自身で思い付かなかった視点からの考えなどを知ることができ、大変良い刺激になりました。特に社会に求められる薬剤師としての力や今後の薬学教育に必要なものなどは、異なる進路を進むメンバーから異なる視点の意見が出たため、今後の薬学教育の発展や薬業連携など職種を超えた薬剤師同士の連携にも応用できるのではないかとも思いました。

学部内において、今後の薬剤師や薬学教育のあり方に関する意見交換や討論はあまり行う機会がなく、ましてや他大学の学生と交流することが殆ど無かったため、今回このようなイベントに参加できたことはとても良い経験になりました。

オンラインであったため、あまり他の会話をする時間はありませんでしたが、他大学の学生との交流を通して、ワークショップのテーマも含めて様々な話をする事ができたため大変良かったと思います。

主催、運営をしていただいた先生方、そして交流した学生の皆様、本当にありがとうございました。

### Ⅲグループ B班 山崎 美喜

今回のワークショップを通して、全国の薬学生とディスカッションを行い、多角的な視点から、社会に求められる薬剤師としての力について考えることができました。

薬学生としてどのようなことができるようになったのか、また、実務実習を通してできなかったことを振り返り、自分自身が受けてきた薬学教育を見つめなおし、今後の薬学教育をより良くするために何が必要になるかを討議しました。ディスカッションを通して、それぞれ生活している地域や大学における教育方針など、学んできた環境が異なる中で物事の捉え方など、自分自身では気がつかないような視点からの意見に驚くこともあり、刺激を受けました。一方、患者さんに対してより良い薬物治療を提供できるような薬剤師になりたいという思いは共通であり、卒業後の進路が異なっても、それぞれが置かれた環境で、理想を目指して取り組んでいきたいと思いました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました関係者の皆様、ならびに参加された先生方、共に議論した参加者の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

### Ⅲグループ C班 熊野 英里奈

今回のワークショップを通じ、学んできた環境も住んでいる環境も全く違うけれど同じ道を目指す仲間達と話をすることで、多様な考えに触れ、大変刺激を受けました。国

家試験・就職を控える今の私にとって「もっと頑張ろう！」とより思えるスパイスとなりました。ありがとうございます。

また、自分の気持ちを赤裸々に話すことで、今まで自分は何を頑張ってきたのか、将来はどんな薬剤師として生きていきたいのか、改めて深く考え直す貴重な機会となりました。班でお話したように、患者・医療従事者問わず相手の立場に立って行動できる薬剤師を目指したいと思います。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催となり、直接お話しできなかったこと、ⅢC班およびⅢグループの方としか意見共有が実現しなかったことは少し残念ではありますが、十二分に活発な討論ができたと感じています。このような素敵な機会を与えて下さった関係者の皆様、班の皆に心より感謝しております。またいつかどこかでお会いできたら、嬉しいです。

### Ⅲグループ C班 高嶋 かれん

今回のWSに参加し、新たな視点を知ったことで自身の立場を改めて理解し、思慮を深める大きなきっかけになりました。様々な大学の学生と一緒に議論することで、共感できる面を発見出来た一方で、在籍している大学のルールに染まっている自分がいるなども感じました。在籍している大学では当たり前な習慣であることが他大学では存在しなかった他、改善すべきだと思っていた部分が異なる立場の意見を知る事で現在遂行されている理由に納得がいく場面もありました。こういった経験は、学内でのグループワークでは感じる事の出来ないものだと思う為、貴重な財産になりました。今回の経験を多く活かしていけるのは薬剤師として現場に出てからだと思います。グループワークでも実習に関する意見が多く取り上げられていたことからよりよい学び・経験を与えるのは大学内だけでなく外の現役薬剤師の協力も更に必要だと感じました。今回のWSと比べると自分ができことはだいぶ小さなものになりますが、現場に来た学生に少しでも良い経験をしてもらえるように心掛けたいと思います。

### Ⅲグループ C班 多田 勇輝

今回、日本薬学会第10回全国学生ワークショップに参加させていただき、自分の大学にしかない特色やカリキュラムに改めて気づき、また逆に他の大学の特色なども知ることが出来て大変有意義な時間でした。班のメンバーにも恵まれ、それぞれのテーマごとのSGDでは、同じ薬学生同士でありながらも大学も住む地域も違うため、各々の違った視点や特色を討論のなかで全員がしっかりと自分の意見に組み込み、熱心に参加している姿に、強い感銘を受けました。また今回のワークショップを通して自身も振り返り、卒業後の自分のあり方を、医療・社会に貢献するためには、これからは受け身になるのではなく、薬剤師自身が積極的に動いて行動していくことが必要であると改めて実感しました。とても良い刺激となりました。

コロナ禍ということもあり、例年とは形式が違いましたが、大きなトラブルもなく素晴らしいワークショップにさせていただき、関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

### Ⅲグループ C班 平山 萌花

今回、全国学生ワークショップに参加させていただき、薬学生としての視野を広げることが出来たとともに、自分の大学の取り組みの良さについて改めて実感することが出来ました。

私が特に印象に残っているのは、「今後求められる薬学教育」についての議論です。このセッションの中では、「IPEの授業によって、チーム医療への理解や経験を深める」といった意見が挙がりました。私の大学では、1～5年次において医学部・看護学部と共同でIPEの授業がありますが、他の大学では行っていないところも多いというお話を聞き、これまでの自分の環境がいかにか恵まれていたのかということを実感しました。これまでIPEで学んできたことをこのような場を通じて他大学の方に共有したり、後輩へIPEの重要性や貴重性について伝えていくことで、今回のワークショップやこれまでの学生生活を通じて学んだことを様々な人に還元していきたいと感じました。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さった日本薬学会の関係者の皆様ならびにタスクフォースの先生方、共に議論した仲間に関心より御礼申し上げます。

### Ⅲグループ C班 堀江 宥磨

今回の全国学生ワークショップに参加できたことは、今後の私自身の薬剤師像および後進の教育について考える上でとても意味のある時間でした。

まず始めに千葉大学病院薬剤部のCOVID-19に対する対応と現状についてお話を聞くことができ、これから私たちが活躍していく医療現場がどのようなものなのか、COVID-19のような非常事態において薬剤師として私たちはどのような対応を考えなければならないのかについて考える機会を得ることができたのは、とても貴重で価値のあるものだったと思います。

また、他大学の学生と普段では行えないような意見交換を行い、今まで内に秘めていた考えを表に出し、他者の意見を取り入れて更なる考えに昇華することができたと思いました。更に、今まで関わる事がなかった他大学の学生との繋がりは、国家試験を乗り越えた先の薬剤師として社会に出たあとも続く人脈として関係を保ちたいと思えるほど素晴らしいものでした。

最後に第10回全国学生ワークショップに参加させていただいたことを心より感謝いたします。

### Ⅲグループ D班 岡本 麻由

今までこのように全国の大学の薬学生と交流する機会がなかったので、自分の大学と

他の大学を比較したことがなかった。今回意見交換をしてみると、それぞれの大学の授業や教育方針に特色があることが分かり、面白かった。

また、それぞれの環境で学んできた学生達と、将来の薬剤師のあり方についてや、6年間を振り返ってみての意見交換を行えたことは貴重な体験であり、自分の中に無い意見なども吸収することができたので、有意義であった。

今回のワークショップに参加したことで自分自身を振り返る良いきっかけにもなった。テーマに沿って5年次の実務実習や6年次までの学習を振り返ることがあったので、最終学年である今、今回振り返ったことを参考にしながら、最終学年をより良いものにしていこう、と思えることができた。

最後に、日本薬学会の皆さま、このような素敵な機会を与えてくださり、誠にありがとうございます。今後とも精進してまいりたいと思います。

### Ⅲグループ D班 岸本 真歩

今回、第10回全国学生ワークショップに参加させていただき、1日という短い時間ではありましたが、貴重な体験をすることができました。

私は、これまで他大学の学生との交流の機会がありませんでした。また、オンラインでのディスカッションということで参加させていただくまで、とても緊張していましたが、SGDがはじまると新たな考えに触れ、多くの刺激が得られた一方で、自分の視野の狭さや知識不足なども感じました。

6年間という薬学教育について今まで考えたことがありませんでした。このワークショップで振り返り、自分では満足と感じていた点が他者からは不満に思っていた点であることがわかり、多方面から物事をとらえる大切さを学びました。また、何事に関してもより良いものを次の世代へと残していくために、日々の生活でもフィードバックを怠らないように、考えたことを発信・共有できる環境に進んで参加していきたいと思いました。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださいました日本薬学会の皆様、各大学の先生方や多くの意見交換をした薬学生の皆様、ワークショップに関わる全ての皆様に深く御礼申し上げます。

### Ⅲグループ D班 好田 匡志

今年の全国学生ワークショップへの参加を指導教員の先生から打診された時、正直少し戸惑いがあった。1大学1人が参加するという事だったので、大学を代表するかなのような責任感を感じていたからだ。しかし実際にワークショップに参加してみると、あくまでも個人の意見を自由に表現して楽しく討論することが趣旨であったので、そこまで気張ることなくリラックスして参加するように心掛けた。

今回はオンライン開催ということもあり、直接顔を突き合わせて話をすることができ

なかったのが少し残念ではあったが、特に大きな問題もなく円滑に討論ができたので良かったと思う。

討論はやはり実務実習の内容が多かった。やはりそれぞれの大学で実習の内容も少しずつ異なっていたため、その違いを聞くことができて良かった。自身の実習経験なども踏まえて、良かったことと改善してほしいことを話し合ったが、正直なところ、私たちの意見を基に改善されていくコアカリキュラムに沿った実習をもう一度受けてみたいと感じた。それほどまでに多くの意見が出し合えたのは良かったと思う。

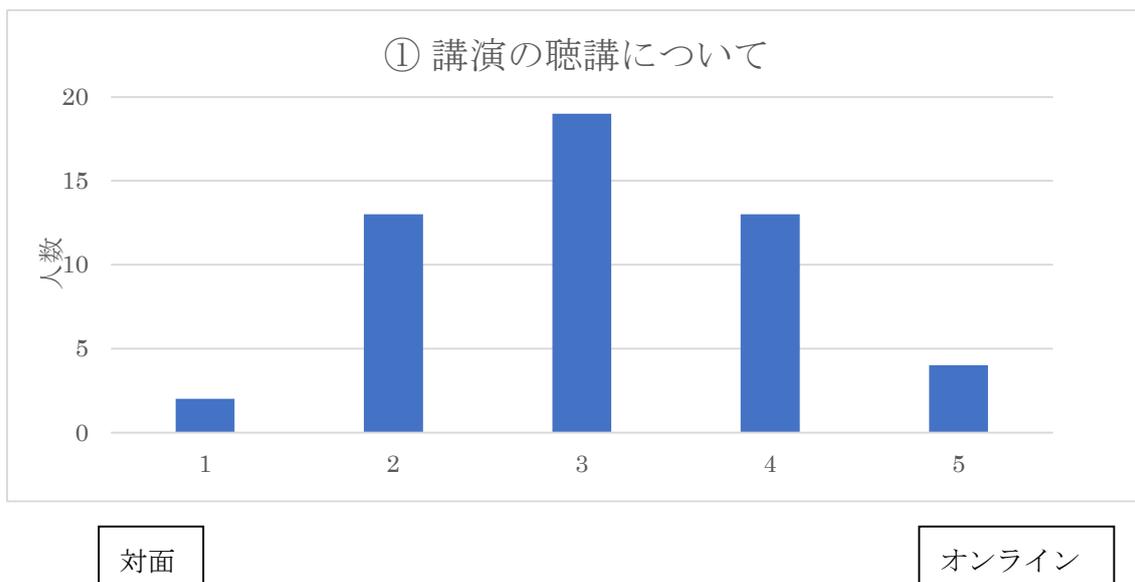
今回参加したことで、自身の6年間を振り返るいい機会になった。また来年も参加できたらいいなと思う。

## 参加者アンケート結果

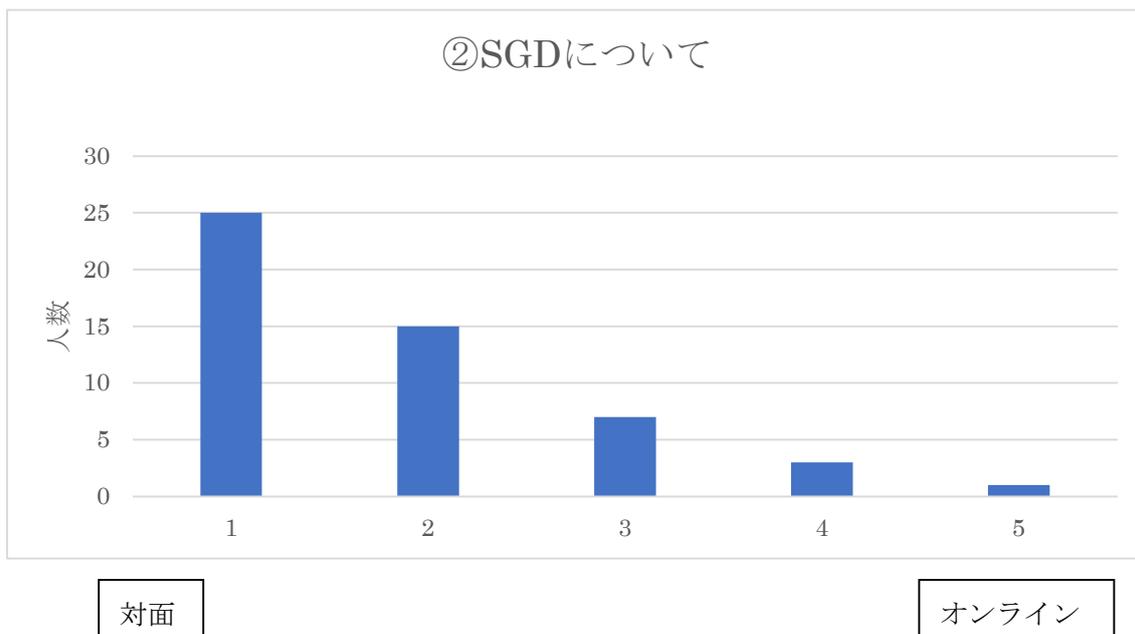
今回の学生WSは、初めてのWeb開催となりました。実際にWeb形式でのWSに参加してみていかがでしたか？皆さんの考えを聞かせてください。

オンライン形式と対面形式ではどちらの方が深い学びにつながるとお思いますか。自分の思うところにチェックをお願いします。

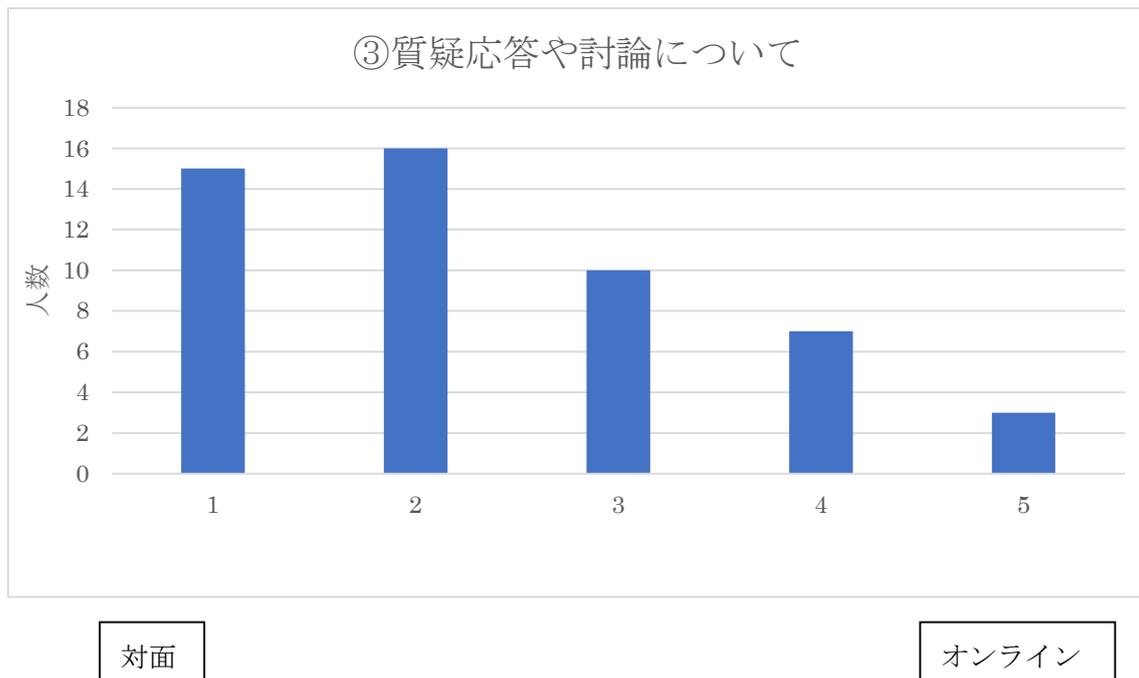
### ①講演の聴講について



### ②SGDについて



### ③ 質疑応答や討論について



### ④ WS 全般を通じて Web 形式での WS の良かったことについて自由に記載してください。

- パワポでスライドを編集しながら議論をしたので、手書きで作成するよりもディスカッションに時間をかけることができましたように思います。
- 卒業研究や卒試など忙しい時期でしたが、各々が自宅や大学から参加でき、不自由なくディスカッションできたので良かったです。
- 地方からでも参加のハードルが高くなかった点です。
- 移動時間を 0 にできる。予定を合わせやすい。
- 移動を伴わず、ネット環境があればどこからでも参加できる所が良かったと思います。
- web 形式だと席によってはスライドが見にくい、といった不具合は無いように感じた。
- 移動の必要がなく参加しやすい。
- 発言者の声が聴き取りやすい。
- 小グループであれば、一画面で全員の表情を把握できる。
- 書記の記録が随時見られる。
- 人の存在感や場の空気が気にならなかったため、質疑応答や討論での発言をあまり緊張せずにできたこと。
- 対面での SGD では、積極的に参加する人は聞き手に回ってしまう人などがいて、全員から意見を聞くことが難しかったりもする。しかし、Web という誰もが不安を抱え

る中での SGD は、全員が協力しなければと思う気持ちが強くなり、意見がたくさん出てくるのではないかと思った。

- 聞き逃しが無かった。
- 画面共有やファイル共有が容易に行えて資料の作成等スムーズに出来たこと、話し合いも対面とほぼ変わらず行えた点はないと感じた。
- 大勢で集まって対面で討論するよりも、かなりリラックスしながら討論に臨むことができたように感じます。講演のスライドも目の前で展開されていくので見やすかったです。
- 移動などの時間を有効活用できる。
- 自宅で移動することなく参加できたのは、経済的にも時間的にもとても参加しやすかったと思います。ディスカッションのスライド作成時に、パワポ画面を共有できたのは、対面の時よりやりやすかったです。また講義のスライドが大変よく見えて助かりました。
- ネット環境さえあれば気軽に参加できること
- 移動の必要がなくインターネット環境だけで全国の人々と議論ができること
- 自分の慣れた環境で行えた。
- 会場に赴くコストや時間の削減になって忙しい 6 年生には悪くなかったかと思いました。
- スライドは近くで綺麗に見えるので、発表の聴講はしやすかったです。
- 自宅での参加で全国の人と関わることが可能
- 講演者の先生のお顔をよく見られたのは良かったです。
- 対面に比べ、会場までの移動にかかる時間や経費がかなり節約されたと思います。
- 地方在住でも、気軽にパソコンから参加することができたので、参加しやすかったです。
- あまり緊張しなかった
- 集まることなく気軽に全国の皆様と繋がることのできる点、発表がパワーポイントで見やすい点は良かったです。
- 画面共有することで、作成中のプロダクトを全員で閲覧しながらディスカッションを進めることができること。全員の顔やリアクションを見ながら意見を述べるので、身近に感じることができること。
- コロナ流行下においても、web 上で全国から学生たちが参加できるところが良かった。
- 移動時間などの負担がなかったこと。
- 思った以上に対面での開催と大きな差異はなかったこと。
- 会場までの往復時間や手間がかからない。
- 現地に赴かず遠距離でこのようなワークショップに参加出来たというのが一番の利点かと思います。

- 遠方の方々とオンラインで気軽に交流ができたのはよかった。
- Web 形式の方が緊張せずに話し合うことが出来た点。物理的距離に関係なく、全国の学生と交流できた点。
- 自分の体を移動させることなく参加できて、効率的だと思った。
- 強制的に大会場へ戻されることで、限られた時間を有効に使おうとすることができた。
- 会場への移動時間がなくなることと、ホワイトボードよりも画面共有機能の方が資料や議題を確認しやすいこと。
- 部屋で一人だったので周りの目を気にせずに話すことができました。
- 少人数での討論を行う際、参加者全員の顔を見ることができると、自分が発表する際に相手の表情を見ながら話すことができる点。
- 遠方への移動の手間や交通費がかからないところ。
- 移動が無かったので、それによる疲れも無く、リラックスして参加することができました。
- プロダクト作成の際に画面共有しながら作成できたので、話の振り返りがしやすかったです。また、一度書いてもすぐに書き直せたり文の切り貼りもすぐできるので通常のSGDよりも作成者の負担が減り、作成者も議論に参加できたかと思います。
- 全国の学生が集まるかつこの時期は定期試験が実施される大学も多いので移動などで時間を取られるより自宅で行えたのも良かったです。
- 家にいるだけで全国の方と話ができて、わざわざ出向いて行かなくてよいためかなり効率的な時間の使い方ができる。
- 緊張が少なかった。
- 場所の移動がないため、参加しやすかった。zoomでのディスカッションは本音が言いにくいのではないかと思っていたが、タスクフォースの方のフォローもあり、充実した話し合いができた。
- 一人一人が端末を所有していたことで、画面共有をしながらプロダクトの作成ができたところが進めやすかったです。
- リラックスしながらWSを行えた。
- 移動の必要がない。
- 画面共有ができて楽だった。
- Web形式の利点としては全国どこからでも気軽に参加できる点だと思います。交通手段などを考えることや実際に移動する手間がなくなるのでとても楽でした。
- 話す方に画面が注目されるので、どの方が話しているのかわかりやすかったし、どなたが話されている時でも距離を感じず顔を見て聴けたという点が良かった。
- 自宅や学校から参加できるため、移動時間などが不要。
- 全員が同じ画面を見られるので、プロダクトが共有しやすい。
- 物理的に離れた相手と直接意見交換できる点はとても良かったと思います。
- 気軽に参加できた（東京まで行く負担が減った）

- 移動時間と費用がかからない点
- 自宅や大学からの参加が可能であるため、会場までの移動の時間がかからない点。
- 感染リスクなく自宅からでも有益な情報を得て交流することができた。
- 移動しなくてすんだのはかなり楽だった。

⑤WS 全般を通じて Web 形式での WS の欠点や困ったことについて自由に記載してください。

- 全体発表の後の質疑応答の際、スライドが小さくて見にくかったので、質問しづらかったです。
- 私はカメラ付きのパソコンを持っておらず、iPhone での参加だったのでファイルをダウンロードできなかつたのも少し不便でした。
- 接続環境によって途中でエラーが出る点です。
- web 形式だと個人的に話をしたい人にアクセスしにくい。対面の場合は、質疑応答の後に個人的に話をするなどというのが、気楽にできたが web 形式だとそういうところが難しいと感じた。しかし、チャットを特定の個人に向けて発信するなどやり方はいくらでもあったので、これは自分が web 形式の WS になれていないことが原因であり、必ずしも web 形式の欠点とはいえない。この形式になれば、個人的には欠点はないように感じた。
- SGD の際に、スライドを画面共有をしたことで、話している人のみしか画面に表示できませんでした。
- 全員の顔が見えないので、自分の発言に対して相手がどう思っているのか読み取りづらい部分がありました。"
- web よりも対面で話す方が緊張感が出て話し合いに、より覇気が生まれると思った。
- 安定した通信環境が必要。
- 雰囲気伝わらず発言しにくい場面がある。
- zoom の操作に慣れていなかったことで、画面共有しながらの資料作製ができなかつたこと。発言するタイミングが被ってしまったこと。空いた時間が少なかつたので、ディスカッションの内容以外の話をできなかつたこと。
- 意見を出すときや質問をしたい時に、環境等の違いにより言葉がかき消されてスムーズにいかない部分もあった。また、対面では手ぶらなどで感じられるコミュニケーションが難しいことで、全てをはっきりとした言葉で伝える難しさを感じた。
- 対面の方が伝えやすい時があった。
- 通信状況によって、音声とうまく聞き取れないことがあった。
- 対面で十分ディスカッションはできたように感じますが、直接顔を見て話せたらもっと仲良くなれたかなと思います。
- タブレットだと共有しながらだとギャラリービューでは自分を含め 4 人までしか顔

が映らないので少し不便でした。"

- 回線の状況などで、声が聞き取れなかったり遅れたりすることから、討論がスムーズに出来ない場合がある。
- 発言をするタイミングが重なってしまうこともあり、少し難しかったです。また対面では休み時間などにグループメンバーとお話できますが、Web だといきなりワークショップから始まり緊張してしまいました。事前にアイスブレイクなどがあるとよりスムーズにディスカッションが始められると思います。
- SGD はウェブでも可能であると思うが、やはり対面の方が話しやすい。
- ネットワークの断線やタイムラグなどが少しストレスに感じた。また、やはり対面のほうが相手の雰囲気を感じやすく議論が進みやすいように感じた。
- 特にありません。
- リアクションに声をのせてしまうと、発言者の声を遮ってしまうので…顔だけでリアクションする事が意外にも難しいと分かりました。
- 通信状況が安定しないことがある。実際に対面で話し合う方がすぐに打ち解けることが出来る様に思う。
- SGD で話すタイミングをつかむのが難しかったです。
- ディスカッション内容について細かな調整をしにくかったように感じます。
- 昨年のワークショップでは一泊二日という話を聞き、その時と比べると学生同士の交流が減ってしまったのではないのかと思います。
- 仲良くなるのに時間がかかるし、話す距離感とか迷った。
- 機材トラブル。
- 話し合いもしづらい。
- 画面を長時間見ると少し疲れてしまう点、音声トラブルが起こってしまった点は困りました。
- 休憩時間などに交流することが難しかったので、実際に会うことができたならより仲を深めることができたかなと思いました。
- 初対面で zoom をするのが初めてだったので、相手を知ることや、話し合いに難しさを感じた。
- P1,P3 での発表内容を聞くことが出来なかったこと。
- 会場の雰囲気、同期の雰囲気、といった、非言語的情報を得られにくい。
- やはり対面で会うからこそ、今後も深くつながっていくことが出来ると思うので、可能であれば対面での開催が良いと思いました。"
- 人によっては電波が安定しない。
- 話し合いづらい。
- ポストイットなどに個々の意見を書いてまとめるなどの作業ができない。
- パソコンだとまとめる作業が大変。
- 休み時間にみんなと話す時間がない。

- 仲良くなりづらい。
- 意見を言うタイミングを掴みづらい。
- プロダクトの作成の際に Power Point に直接作ることになるため、紙を使ったプロダクト作成に比べまとめづらい部分もありました。(勿論、紙に比べ記録が早く行えるので、逆にまとめやすい部分もありましたので、一概に欠点ではないかとも思います。)
- 他の欠点としては、他グループの学生との接点がほとんどなかった部分もあるかと思えます。
- オンラインの使用に慣れているといっても、オンラインで意見交換することまで慣れていなかったため、思ったように議論することができなかった。
- PPT の作成時に指差し等が出来なかったため、説明がほぼ全て言葉だよりになりコミュニケーションがやや難しかった点。音声聞き取りづらい点。
- 情報の共有が難しかった。
- ネット回線・周辺機器トラブルによる遅延や、zoom の性質上複数人が同時に会話できないこと(例えば5人班の場合、2人と3人に分かれて同時に会話するといったことができないこと)。
- ラグがあるため話始めが被るなどがあり、場合によっては円滑な会話が妨げられることがあった。
- 休憩時間などに雑談などを交えて参加している方々との仲を深めることが出来ない点。
- 自分のネット環境が時々不安定で、フリーズしたり聞き取れないところがあった。
- SGD の際、話始めるタイミングが被ってしまった事があり、それ以降あまり積極的に話ができませんでした。
- SGD はやはり対面でやった方が話しやすいということもあったのでやりにくいなと感じました。相槌をいつもより大きく打たなくてはいけなかったり、空気感がわからず話を遮ってしまったりと進行面で難しく感じる事がありました。
- パワーポイントを使っているため、個人の画面が小さく表情や話すタイミングが分かりづらいところがあった。また、インターネットやパソコンなどが苦手であるため、終始不安であった。
- 質疑応答がしにくい、議論したらない、より仲を深めることができない。
- 1枚の紙にみんなが意見を書き出すなど対面ならではの作業ができたなら、さらに深い内容の話し合いができたのではないかと感じた。
- 発表しているときに、全体に画面共有をしているので、聴いてくださる方々の表情を見ながら発表できないところが欠点かと感じました。
- 発表用の資料作りとちょっとしたメモの使い分けが不便だった
- SGD 中に図を用いた説明がしにくい"
- Web 形式での欠点としては対面で話すことができず、深いコミュニケーションが取

れない点が挙げられます。やはり、複数人が話そうとすると会話が聞こえずらく話しだすタイミングが難しいと改めて感じました。また、対面に比べ気軽に雑談ができないことや、グループが限られているため他のグループの方々と交流できず少し残念でした。

- 声を出さず手を挙げるなどの動作では画面が注目されないのでは、見つけられない場面もあった。場の空気感を肌で感じ取れなかったので発言するタイミングをつかみにくかった。
- 回線が落ちてしまったり、音声途切れてしまうことが時々あった。
- 対面の方が周りの雰囲気などを感じられるので、ディスカッションの進行がスムーズにできるのではないかと感じた。
- オンラインのため、どうしても会話にタイムラグが発生してしまうので、発言がダブってしまう点は困りました。
- 対面形式に比べて発言に躊躇してしまう場面が多くなったように感じた
- 1対1の会話がしたくてもできない"
- 対面の方が学生と仲良くなりやすい
- 通信状態が不安定になると、他の人の話を聞き逃してしまう点。
- 落ちてしまうのではないかと不安との戦い(私自身がオンラインに不慣れであることにも問題があります)。
- ほかのグループの人とは話す機会が全くなかった。

#### ⑥そのほかご意見がございましたらお書きください。

- 他大学の学生の方とディスカッションする機会はほとんどなかったので、いろいろなお話が出来て楽しかったです。
- 貴重な機会をいただき、ありがとうございました。意識の高い方々に負けないよう努力を続けたいと思います。
- 時間設定がシビア。もうすこしざっくりばらんに落ち着いてディスカッションを進めたかった。
- コロナが流行して大変な中、WSを開いて頂き、また参加させて頂きありがとうございました。
- 今回 Web 形式で WS が開催され、一長一短あったように思います。まず自宅からも参加できるという気軽さがあり、参加しやすかったです。SGD 等はやはり、対面の方がコミュニケーションがとりやすいように感じました。  
また、全国の薬学部 6 年生と話せる機会はあまりないので、様々な意見、各大学の特色、それぞれの考えを聞くことができ、個人的に、とても考えさせられる有意義な時間でした。
- 大枠のテーマだけでなく、各議題の詳細が事前に開示されていれば、個人の意見を予

- めまとめることができ、SGD がよりスムーズになったと思います。
- また、小グループ内だけでも、個人の意見を事前に共有できれば、短い時間でより効率よくディスカッションが出来ると思います。
- 他大学の同年の薬学生さんと話す機会は今まで少なかったのが、共通点や相違点を発見でき、とても勉強になりました。1日かかっていたより短く感じました。  
貴重な機会をいただきありがとうございました。"
  - 今日出会った仲間たちと、いつか直接会ってまた討論したいなと思えました。
  - 全国の他大学の学生とお話できたのは、とても新鮮で刺激的な経験となりました。オンラインでの開催となりましたが、参加できたことをとても嬉しく思います。開催にあたりご尽力いただきました先生方に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。
  - とても有意義な時間でした。
  - 大変な状況にも関わらず、リモートとして開催していただき、ありがとうございました。
  - 他大学の方と意見を交換する貴重な経験になりました。
  - とても貴重な体験をありがとうございました。
  - 他のグループ(P2、P3)の方ともお話してみたかったです。
  - 今回のように ZOOM を用いることで、全国の薬学生と交流できるのは大変良いことだと感じたので、今後もっと機会が増えたらいいなと思いました。ディスカッションの中でも、実務実習後などに他の薬学生と交流できれば、議論や情報交換も盛んに行われるのではと意見が出ました。
  - 全国の薬学生と交流する機会がなかったため、今回の WS は有意義なもので刺激を受けました。web 上での開催ありがとうございました。
  - オンラインでの心理的障壁を加味して、先生方が打ち解けられるように配慮してくださっていたことが、終始とても伝わってきました。
  - このようなご時世にオンラインでの開催を決行してくださったこと、改めて感謝申し上げます。
  - 本当にありがとうございました。"
  - アイスブレイクが最初に欲しかった
  - 特にありません。
  - 本日はお忙しい中ワークショップを開催していただき、誠にありがとうございました。
  - 今後について考えるととても良い機会になりました。"
  - 話し合いだけで1時間使い切ってしまうことが多く、自分の作成したプロダクトが不十分だった事が残念だった。
  - 運営の先生方から「大学を代表した意見でなく、個人の意見が良い」という点を何度も強調していただいたので、気負うことなく発言することが出来てとても良い WS になったと感じました。

- 1泊2日で集合するよりも参加への心理的ハードルが低かった。
- 各セッションにおいて議論する内容の詳細が事前にわかると、よりスムーズに議論を開始できると感じました。
- 関東だけではなく全国の薬学生と話す機会はあまりないのでとても良い機会だったと感じています。
- 同じコアカリでも大学独自の特色があるので特にセッション3のような議論は後輩のためにも意義のあるものだと感じました。"
- 次回が対面で開催できることを願っております。
- また都合が良ければ卒業生として参加したいです。
- 今回は貴重な体験ありがとうございます。"
- WSの後にグループ以外の方たちと交流会ができたらいいと思った。
- 今回は皆さんに直接お会いすることが出来なかったのが、数年後に大人数で集まれる機会が確保できれば、またこのメンバーで集まりたいと感じました。
- オンラインでのワークショップを企画してくださった先生方、本日のような貴重な機会をくださり本当にありがとうございました。皆さんと意見交換ができたことで、とても勉強になりましたし、楽しかったです。今後とも宜しくお願い致します。"
- お世話になりました。ありがとうございました。
- 今年は新型コロナウイルスの影響もありWeb形式となりましたが、このような状況にもかかわらず開催していただきとても勉強になる素晴らしい会でした。ありがとうございました。ただ、より交流を深めるためにも対面形式の方が良いのではないかと思います。
- とても貴重な経験ができて良かったです。ありがとうございました。
- セッション1はどうしても初対面ということもあり、お互い発言しにくかったように感じました。昼休みで雑談した後のセッション2からは、気軽に発言しやすくなったのでセッションの前にアイスブレイクの時間を設けると良いのではないかと思います。
- Web形式での開催でも2日間実施していただき良かった。グループが打ち解け始め、自由に意見が飛び交うようになったあたりで終了になってしまい、消化不良感があった。
- トラブル発生時にはすぐに対応していただき、Web形式でもストレスフリーに参加することができました。裏方のスタッフの方々をはじめ、ご尽力くださった先生方に感謝申し上げます。

## 第10回全国学生ワークショップ

### ワーキンググループメンバー

平井 みどり	兵庫県赤十字血液センター
◎石井 伊都子	千葉大学病院薬剤部
有田 悦子	北里大学薬学部
木下 淳	兵庫医療大学薬学部
徳山 尚吾	神戸学院大学薬学部
野呂瀬 崇彦	北海道科学大学薬学部

### タスクフォース

五十里 彰	岐阜薬科大学
井上 裕文	福山大学薬学部
大津 史子	名城大学薬学部
大柳 賀津夫	北陸大学薬学部
亀井 美和子	帝京平成大学薬学部
川崎 郁勇	武庫川女子大学薬学部
河野 武幸	摂南大学薬学部
菅原 満	北海道大学薬学部
鈴木 匡	名古屋市立大学大学院薬学研究科
高橋 寛	岩手医科大学薬学部
田村 豊	福山大学薬学部
長谷川 洋一	名城大学薬学部
林 秀敏	名古屋市立大学薬学部
平澤 典保	東北大学大学院薬学研究科
細江 智夫	星薬科大学
武藤 純平	山口東京理科大学薬学部
安原 智久	摂南大学薬学部
山下 富義	京都大学薬学部

◎実行委員長